

事業所名 **こどもの森うらここ（児童発達支援）** **支援プログラム** 作成日 **6** 年 **12** 月 **28** 日

法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりに対する丁寧な「根拠」のある子育てをする。児童の主体性と個性を尊重し、様々な場面において自己決定できるよう一緒に考えていく。 ・保護者とともに日々の生活、育児の悩みを考え、子育てを応援していく。 ・障がい児通所支援事業所として地域への貢献、地域に根差した事業所を目指していく。 							
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児又は発達に困りのある児童が日常生活における基本的動作及び知的技能を習得し、並びに集団活動に適應することができるよう保護者とともに療育をおこなう。 ・児童及び保護者が安心して過ごし、安心して気持ちを表現し相談できる場である。 ・関係機関との連携をはかり、児童の身体及び精神の状況並びにそのおかれている環境に応じて適切かつ効果的な支援及び応援をおこなう。 ・社会との交流をはかることができるよう応援し、生活能力の向上のために必要な支援をおこなう。 							
営業時間		9 時	0 分	18 時	0 分	送迎実施の有無	あり なし		
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の温度管理や換気、遊具や玩具の消毒清掃など衛生的で安心安全な環境を維持し、手洗い、検温などの生活習慣を身につける事で健康に過ごす。 ・衣類の着脱や排泄、飲水や食事など身のまわりの事が自分でできるよう個々に合わせ無理なく自立を応援する。 ・日々のアレルギーや健康状態の把握に努め保護者と様子を共有し体調に合わせた支援をおこなう。 							
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・山、川あそびや畑仕事、草木や虫・木の実の採取や観察など季節に合わせた多彩な自然体験活動を通し体中から様々な心地よい感覚刺激をうけ心と体が発達する。 ・感覚遊具の配置や組み合わせ、使い方を日々変えながら粗大運動、協調運動、環境に合わせた体の使い方や様々な姿勢を経験し固有覚、前庭覚、発想の豊かさや自信を育てる。 ・土や草木、虫や小動物、雪、川水などの自然の素材や小麦粉粘土、スライム、新聞やぶりなど様々な感触あそびを通して手足、体から心地よい刺激をうける。 							
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真を用いた予定表や、活動の手順表、視覚だけでなく場面の切り替わりにはタイマーを用いて見通しをもち安心して活動に参加できる環境を整える。 ・大人も一緒に活動し楽しい気持ちやうまく出来た時には言葉だけでなくハイタッチやグーサインなど目や耳、体の感触からも喜びを共有する。 ・分からなさや不安のなか落ち着けない気持ちの時に自分で自分の安心をみつける様子を大切に見守りながら安心安全な環境を確保して待ち、安心が自信に繋がるよう応援する。 							
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせた自然体験活動や感覚遊具を使った活動を通して体中から心地よい感覚刺激をうけ、粗大運動や様々な姿勢を経験することで心と体が発達する。 ・手指を使ったあそびを楽しむことで、自然に発する声や手指と連動した口の動きを引き出し言葉の発達に繋げる。 ・いつも大人が傍にいて児童の気持ちを代弁し伝わる実感と安心を感じながら言葉に拘らない身振り手振り、表情や感情の表出など様々な表現方法を育てる。児童の言葉を復唱し、ジェスチャー、マカトンなどの表現は模倣して児童から学び理解し合える喜びを共に感じる。 ・手あそび、体あそび、絵本の読み聞かせ、スキンシップの繰り返しあそびを通して様々な表現方法を見聞きし安心して表現しながら愛着を育てる。 ・月1回言語聴覚士を招き個々に合った適切な療育方法を学ぶ。保護者からの直接の相談をうけ面談の機会を設ける。 							
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の中で、大人が1対1で児童とともに過ごし安全基地となり、思いを代弁し周囲の様子を声にしながらかんがえが伝わる居心地の良さを感じる。 ・制作や粘土など個別の活動をしている時にも他者と同じ空間で居心地よく過ごせる事から大切に見守り、小集団の中で自然に始まる他者とのやり取りを応援する。 ・ごっこあそびや簡単なルールのある活動を通して、大人と一緒にやり取りの練習をしながら小集団の中で楽しめた経験をつみ重ねる。 ・臨床美術師、心理士、作業療法士、言語聴覚士など毎月外部専門スタッフを招きともに活動する中で無理なく安心できる大人との関わりを拓ける。 ・公園や博物館など公共の施設に出かけ、新しい人との関わりを経験する。 							
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談や家庭訪問、連絡帳や電話連絡により様子伺いや相談。児童の様子や子育ての悩みだけでなく、兄弟との関係や兄弟の様子について、保育施設や家族との関係についても共に悩み応援する。 ・父母（祖父母）がともに通所し相談援助を行う事で他者の関わり方を見ながら適切な児童との関わりを深める。 ・月1回の保護者茶話会の開催、子育てについての研修会の案内や取りまとめ。 ・町内のイベントや子育て応援についての情報提供や利用サポート。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・入園希望の保育施設見学に同行しそれぞれの場での児童の様子を共有する。 ・医療機関受診や発達検査などに同行、就学に向けた応援ミーティングを行い保育施設から小学校にスムーズに移行できるよう地域と連携しながら応援する。 ・就学に向け、町の就学前説明会に保護者を誘い参加するなど地域の状況の把握に務める。 		
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が通う保育施設の発表会、運動会の応援に参加、通常保育の訪問見学し日常の様子を理解し各機関と共有する。 ・医療機関、保育施設、他の療育機関、相談支援事業所、福祉施設や行政機関その他関係機関とともに本人や家族を中心に応援ミーティングを開催。 ・特別支援連携協議会、発達支援施設連携協議会、自立支援協議会子ども部会など様々な協議会に参加。 ・子育て応援を考える会の構成員として地域と連携しながら普段の生活と継続して児童、その家族を応援する。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、言語聴覚士、作業療法士、心理士、臨床美術師を招き、直接児童一人ひとりに合わせた関わりや支援方法のアドバイスをうける。 ・週1回支援会議を開き療育内容の計画をたてながら個別対応の方法などを確認 ・外部研修会に参加し新しい知識や子育てについての考え方を学んでいる。 		
主な行事等		季節に合わせた自然体験活動：春（山菜、椎茸狩り、畑作業、川遊び、生物の飼育）、夏（水遊び）、秋（畑収穫、栗拾い、木の実・虫採取）、冬（雪あそび、ソリ滑り） その他の行事：はじめましての会、ひな祭り、買い物ごっこ、七夕、スイカ割り、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、新年会、節分、バレンタイン、避難訓練、収穫祭							